

会議記録（要旨）

会議名	令和5年度 第3回杉並区子ども読書活動推進懇談会
日時	令和6年3月8日（金） 午前10時～12時
場所	中央図書館 地下ホール
出席者	前田委員、スギヤマ委員、中山委員、澁川委員、小林委員、戸賀崎委員、鈴木委員、伊藤委員 出保中央図書館長、奈良学校図書館支援担当係長、寺崎資料相談係長、辻事業係長、佐川企画運営係長、早川企画運営係主査、企画運営係職員（渡邊、芥川）
配付資料	○令和5年度 第3回子ども読書活動推進懇談会 席次表 ○【資料1】令和5年度第3四半期 子ども読書活動推進進捗管理票 ○【資料2】令和6年度～8年度 子ども読書活動推進改定案 その他、各委員からの持ち寄り資料
<p>1. 開会</p> <p>2. 中央図書館長 挨拶</p> <p>3. 令和5年度第3四半期「杉並区子ども読書活動推進計画」進捗状況報告(資料1) 〈家庭・地域等における読書活動の推移〉</p> <p>〈学校における読書活動の推移〉</p> <p>〈図書館等における読書活動の推移〉</p> <p>・調べる学習コンクールで杉並区長賞を受賞した児童が、全国観光庁長賞を受賞した。「みんな大好き杉並区」というタイトルでアニメーションミュージアムの活用について提案し、ユーチューブでも発信された。</p> <p>〈読書活動に関する情報の発信〉</p> <p>〈読書活動を推進するための体制と関係機関の協力・連携〉</p> <p>【質疑応答】</p> <p>委員：杉並区はアニメ関連の会社等が集まり、アニメーションミュージアムもあるが、図書館でもアニメの街を軸とした事業の展開をしているのか。</p> <p>事務局：令和4年度に1か月半中央図書館はアニメーションミュージアムと連携し、1階で展示を行った。グッズを借り、ガンダムの模型も展示し華やかに行った。集客力があり杉並区外からも多くの来館者があった。「みんなの好きなアニメーションは何か」というテーマでその場で書いてもらって貼り出したり、作品の元となった関連本の展示、貸出も行った。</p> <p>委員：資料の収集方針は。</p> <p>事務局：アニメ関連の資料やコミックのすべてを入れることはできない。厳選して一定の基準を満たしたものを収集している。検討して入れるか入れないか決めている。高井戸図書館は中学校と併設しているのでコミックを多く収集している。</p>	

委員 : (アニメがテーマで) 調べる学習コンクールで受賞したことを機に新しい展開を期待する。意義あるものに将来していかななくてはいけないと思う。

委員 : ラピュタや人形アニメーション、創作、著作権の問題がある。どこまでがOKでどこまでがだめか、著作権の講習ももっとやってもらいたい。受賞を機に図書館で(アニメ関連について)もっといろいろやってもらいたい。

学校司書研修の講演会で講師を務めたが、参加した司書の熱量を感じた。学校図書館に対する済美教育センターのサポートと連携に胸が熱くなった。

委員 : 宮前図書館「あの本を探し出せ」はすばらしい企画だ。

4. 子ども読書活動推進計画 令和6年度～8年度 改定について(資料2)

事務局: 改定案のp.10「計画の目標と期間」の部分で指標を変更した。今回、指標は国の「全国学力・学習状況調査」の「児童・生徒質問紙調査」を活用した。今までは杉並区の調査を活用していたが、質問項目が変わり「未読者」の数字が出せなくなったため、国の調査を活用することにした。

昨年12月開催の改定検討委員会と今年2月に開催された文教委員会を経て、改定内容が固まった。現在は3月15日から行われるパブリックコメントに向け準備を進めている。6月の杉並区議会で承認を得たのちに公表する予定だ。

【質疑応答】

委員 : p.10の指標で未読者とあるが、どのように変わったのか具体的に説明してほしい。

委員 : 未読者の定義は調査によって違う。今回、読んだ冊数から読書時間を調査する内容が変わっている。これは最近の動向で、時間の調査の方がよいと思う。

事務局: 杉並区独自の調査では0冊が未読者という定義だったが、その調査項目がなくなってしまったので、指標1で国の調査を活用した。ちなみに指標1の今年度の結果は、小学6年生で2時間以上本を読んでいる児童は、杉並区で10%、国全体で7.7%だった。読む時間がない児童を「読んでない」とした。

国の調査は小学6年生と中学3年生という本を読まなくなる学年で、なおかつ調査対象時間が平日の学校授業時間以外だ。そのため指標2として、「読書が好きな小中学生の割合」を加えた。

委員 : 小学6年生と中学3年生のみの調査は残念だ。

委員 : 読書時間を指標にしたのはよいと思う。学校図書館や校内で読書することの定義が見えにくい。団体を推進していくのも重要だ。学校で組織的に取り組む読書活動をどう見るか。指標2の「読書が好き」にひっかかる。読書が嫌いでも読むことはできると思うが、このことをどう捉えるか。

委員 : 学校の実態は見えにくい。授業では教科書のみ指導になってしまう。低学年から中学年は学校図書館に行って読む時間を大切にしている。家庭との連携が大事だ。学習要領が改定され、実態調査の取り方が難しくなった。令和3年から東京都は学力調査をやめて生活実態調査になった。東京都の調査は小学4年生から中学生まであるので活用できるかもしれないが、読書の項目があるかはわからない。

事務局: 子どもの実態が見えていない。何らかの調査が必要であり、これからの課題だ。杉並区なりの調査方法を見つけたい。

委員 : 国分寺市では小学校2校と中学校2校で独自調査をしている。全国学校調査と同じ文言で行っている。

事務局：指標2の「読書が好き」については、苦手だった読書が嫌ではなくなったなど、読書活動の成果としてどうだったかがわかると思う。参考になると考え採用した。

委員：どこかでキャッチした個別のエピソードが盛り込めれば良いと思う。

委員：書き方として盛り込めるか。もう少し普通の人がわかる書き方に修正してもらいたい。

事務局：これからパブリックコメントを行うので、そこで修正していく。

委員：改定案p.1「2 計画の基本的考え方(2) 基本的考え方」に「耳からの読書」という文言があるが、機能的な内容を表現した言葉を入れるには配慮が必要だ。「人とのつながり」を表現する内容に変えたほうが良いと思う。

事務局：子どもが一人で読むことができる前の段階として盛り込んだが、今の時代には合わないだろう。「人とのつながり」を伝えたかったわけではない。

委員：乳幼児は一人では本を読めない。人とのつながりがあってこそその読書だ。

委員：「人とのつながり」ではなく「人とのかかわり」がよいのではないか。

委員：このようなプロセスがあって、子どもたちが本への親しみを増していく、という修正がよいと思う。「耳」は機能的なものだが、図書館の狙いとして示していくのは問題ないと思う。

5. 子ども読書活動推進計画について

委員：各委員が関わっている子どもの読書活動について、杉並区の子ども読書活動推進に活かしていけるようお話を伺う。今回は、小学校で図書ボランティアの活動を続けている委員にお話していただく。

委員：松ノ木小学校で図書ボランティアとして、壁面構成と各クラスへの読み聞かせをしている。以前は保護者だったが、今はボランティアとしてかかわっている。

壁面構成は、学校司書が選んだ本を10冊分、年間10枚作っている。メンバーは8名だが、通常5～6名で集まって作成している。学校に来たが授業に出られない子も一緒に参加して作成している。壁面構成には松ノ木小のキャラクターまつぼくくを入れていた。また、学校司書が作った問題も入れている。本が好きな子はもっと読むし、読んでいない子は読んでみようと思ってもらえるよう作っている。壁面を見て子どもたちは、あれこれと想像することができる。

読み聞かせは低学年と中学年に月2回、朝の15分間で行っている。読み聞かせはコロナ禍で2020年度から21年度まで中止となった。2022年度は録画したものを見せるという形で再開した。スクリーンが白っぽくなるので、なるべく色ははっきりしている本を選んだが、おおむね好評だった。目の前で子どもの反応がないのが不安だったが、お互いに後から録画を見直すことができ、読み手の勉強になった。

今年度より対面での読み聞かせが復活した。クラスによっては準備が整わず読み聞かせが中止になることもあった。教員に読み聞かせよりも優先したいことがあれば中止することもあった。

ボランティアによっては素話をすることもある。子どもたちは集中して聞いていた。教員と一緒に聴いているのがよいというボランティアもいる。自分自身は、聴いていてもいなくてもいいと思っている。

季節感を持った選本を行い、朝の雰囲気を読む本を替える。教員から子どもに、また高学年の子から低学年の子への読み聞かせを以前は行っていた。

朝の読み聞かせが中学生以上の朝読書につながると思う。読書は楽しいということを伝えていけたらよいと思っている。

【質疑応答】

- 委員 : 読み聞かせは学校によって違うと思った。高井戸小学校は15分から10分になってしまい時間との格闘だ。先生は同席している。読み聞かせが積み重ねると授業の一環として扱われると聞いたが。
- 委員 : それはモジュールという取り方だ。10分ずつ積み重ね授業1時間分としてカウントする。担任が認めれば積み重ねができる。学校司書が読み聞かせをして動機づけをしてくれる学校もある。
- 読み聞かせ中に自分の仕事をしている教師がいる。朝のミーティングはやめているが、すぐに教室に行かない教師もいる。
- 委員 : 教員が読み聞かせに関わらなくても、同席して余韻に浸るだけでよい。教師が感想を話すと緊張する。高学年への読み聞かせはホッとするとときを持ってもらうだけでもよい。
- 委員 : 壁面構成は振り返ることができてとてもよい。教室に入れない子が作っているのもよい。自分の子どもが通う小学校での活動でも参考になった。読み聞かせは様々な人が地域で関われると思う。
- 委員 : 無理なく楽しく、好きだから続けている。それは子どもにも自然に伝わっていくと思う。

6. 意見交換 「図書館等における読書活動の推進について」

- 委員 : 今回の意見交換のテーマ「図書館等における読書活動の推進について」で、委員の意見をうかがいたい。
- 委員 : 図書館での工作や映画会等は、家庭ではできない経験ができる機会であり、図書館に行くきっかけにもなる。また、朗読劇をやってほしい。朗読には力があり、その取り組みも読書に返ってくる。
- 委員 : あかちゃん向けの本のブックトークや、セレクトした本の紹介をもっとしてほしい。中学生の生徒によるおはなし会をもっと増やしてほしい。図書館から中学校に声掛けをして進めてほしい。また、出版や編集、校正などの本にまつわる仕事、どうやって本ができるか実際に携わっている人から話を聞きたい。
- 委員 : これからの図書館への希望として「学校図書館の充実」「教員の読書への支援」をあげる。教員が本をすすめるだけで子どもたちは読んでくれる。低学年は教員の関心度で子どもたちの本を読む意識が変わる。また、学校図書館の充実はとても大事だが、非正規の問題など、そこで働く学校司書の待遇向上は欠かせない。
- 委員 : 中学生によるおはなし会など、子どもが主体の活動はとてもよいと思う。自分が子どもだったら活動したくなるようなものを増やしてほしい。
- 情報発信として、図書館の活動を学校HPで発信してほしい。調布市では中学生が書いた原稿を図書館HPに出している。YA世代が企画運営したものを図書館がフォローし、一緒に読書推進を作っていくのがよい。
- 今回5館で参加した「すぎなみフェスタ」のように、大きいイベントで読書活動をもっとアピールしてほしい。本が嫌いな子どもも図書館に親しむきっかけになると思う。
- 委員 : 図書館はこんなに楽しいところと思うような、自分の場所になっていくようなイベントがもっとあってもよい。例えば、宮前図書館で鈴虫を飼ったり、他自治体では畑を作ったり演劇をする図書館もある。それぞれの特色を生かした活動を、横のつながりを持って実施してほしい。
- 委員 : 子どものころは図書館は目的がないと行かないところだった。図書館に他の価値が出てくれ

ばよい。ちょっとしたコーナーや楽しみ、また来たくくなるようなしかけがあるといい。本屋がなくなってきた。また、複合施設の中に図書館があると立ち寄りやすい。図書館が身近になる。

委員：今までの図書館のイメージでは、フラワーアレンジメントやプラネタリウムといった事業は想像できなかったが、参加してみたくなる。

中学校では書評座談会の参加者、参加校が減っている。図書館でも有志が参加できるような形で企画してみてもどうか。

7. 懇談会の振り返りについて

委員：今まで参加した懇談会を振り返って、ご感想、これからのご提言をいただきたい。

委員：いろいろな立場の違いを持った意見をうかがい、気がついたこと、見えてきたことがあった。

委員：自分も学校関係者としての立場から見ている。様々な立場の意見を幅広くつなげていくのが懇談会の目的だと思う。

委員：図書館の取組をたくさん知ることができた。懇談会では何かを決定するわけではないが、形骸化することなく、ここで出た意見をどう生かすかが大事だ。

委員：特別支援、ICT活動を図書館でも進めてほしい。国では柱の一つに入った。杉並区でも意識して取り組んでいくと思っている。

指定管理も含めてやっていくのは難しいと思うが、杉並区全体として読書活動をすすめてほしい。例えば「りんごの棚」は一部の館だけでなく、全体でやってほしい。

また、おはなし会だけではなく、フリーに図書館員が利用者に声をかけて絵本を読むような、フロアワークの必要性を図書館員に認識してもらいたい。

委員：意見交換の際、他の委員の意見に対し質問する時間があまりなかったのが残念だ。意見交換をどう生かすかが大事で、難しいがうまく進めてもらいたい。

委員：自分がこの懇談会でどういう立ち位置で発言したらいいか戸惑うこともあった。子どもと読書との関わりについて、自分が現場でやっている活動を話すことで共有することができた。他の委員の意見も自分の活動に生かすことができよかったと思う。

委員：懇談会に参加し貴重な経験をすることができた。ここで議論したことを生かせないのはもったいないと考えている。これから子どもの読書活動に関わることを地域でやっていきたい。

事務局：学校図書館のことは実態が知られていないと思うので、この場で委員のみなさんに話ができてよかったと思う。いろいろなアドバイスや非正規の学校司書に対する応援もいただき、ありがたかった。

委員：各館のイベントが打ち上げ花火的に行われ、バラバラな印象があるので、杉並区として継続性を持った活動にしてほしい。

8. 事務連絡（次回開催予定）

事務局：令和6年度第1回懇談会は6月に開催したい。